

製品名: MDA5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13746**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	120kDa

抗原情報

遺伝子名	IFIH1
別名	IFIH1; MDA5; RH116; Interferon-induced helicase C domain-containing protein 1; Clinically amyopathic dermatomyositis autoantigen 140 kDa; CADM-140 autoantigen; Helicase with 2 CARD domains; Helicard; Interferon-induced with helicase C domai
遺伝子 ID	64135.0
SwissProt ID	Q9BYX4
免疫原	抗血清はヒト IFIH1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 976-1025

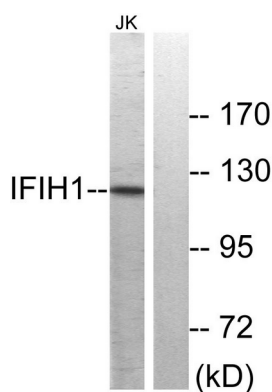
背景

DEAD ボックスタンパク質は、保存された Asp-Glu-Ala-Asp (DEAD) モチーフを特徴とし、RNA ヘリカーゼと推定される。翻訳開始、核およびミトコンドリアにおけるスプライシング、リボソームおよびスプライソソームの組み立てなど、RNA 二次構造の変化を伴う多くの細胞プロセスに関与していると考えられている。分布パターンに基づき、このファミリーの一部のメンバーは、胚形成、精子形成、細胞の成長および分裂に関与していると考えられている。この遺伝子は、 β インターフェロンおよびタンパク質キナーゼ C 活性化化合物であるメゼレインによる治療に反応して発現が上昇する DEAD ボックスタンパク質をコードしている。これらの薬剤の両方を投与することで、メラノーマの不可逆的なリプログラミングが達成される。一方、どちらか一方の薬剤を単独で投与した場合は、可逆的な分化しか達成されない。この遺伝子の遺伝的変異は、インスリン依存性糖尿病と関連している。疾患: IFIH1 の遺伝的変異は、インスリン依存性糖尿病 19 (IDDM19) [MIM:610155] と関連している。機能: ATP 依存性の RNA 巻き戻しを介して、特定の RNase によるメッセージ分解を促進する機能を持つ可能性がある RNA ヘリカーゼ。成長抑制特性があると思われる。ウイルスに対する自然免疫防御に関与している。ウイルス複製中に生成された細胞内 dsRNA と相互作用すると、MAVS/IPS1 を含む伝達カスケードが開始され、NF- κ B、IRF3、IRF7 が活性化され、IFN- β や RANTES (CCL5) などの抗ウイルスサイトカインの発現が誘導される。ATPase 活性は dsRNA によって特異的に誘導される。ピコルナウイルスに対するインターフェロン産生に必須。誘導: IFN- β および TNF- α による。その他: HIV-1 に感染した HeLa-CD4 細胞において、IFIH1 の過剰発現は、分泌型ウイルス p24 タンパク質の大幅な増加をもたらす。PTM: アポトーシスの過程で、3 つの切断産物に加工される。ヘリカーゼを含む断片は、CARD ドメインから遊離すると、細胞質から核へと移行する。加工されたタンパク質は、細胞の DNA 分解に対する感受性を著しく高める。配列注意: 配列が汚染されている。潜在的なポリ A 配列。類似性: ヘリカーゼファミリーに属する。類似性: ヘリカーゼ ATP 結合ドメインを 1 つ含む。類似性: ヘリカーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性: CARD ドメインを 2 つ含む。細胞内局在: アポトーシス過程の核内に認められる場合がある。サブユニット: MAVS と相互作用する。サルウイルス 5、ヒトパラインフルエンザウイルス 2、ムンプスウイルス、センダイウイルス、ヘンドラウイルスの V タンパク質と相互作用する。パラミクソウイルスの V タンパク質に結合すると、IFN- β 誘導が阻害され、抗ウイルス状態のさらなる確立が阻害される。組織特異性: 低レベルで広く発現している。胎盤、脾臓、脾臓ではやや高いレベルで発現が検出され、脳、精巣、肺ではほとんど検出されない。

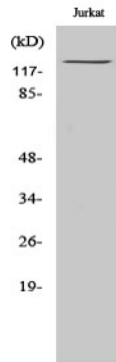
研究分野

RIG-I 様受容体;

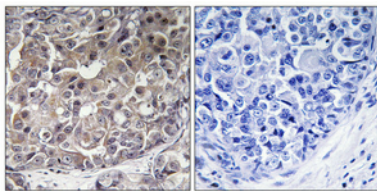
画像データ



IFIH1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



MDA5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。